



タイの国民は、休日となる12月5日がプミポン前国王の誕生日であり、「父の日」であることは知っている。しかしながら前日の12月4日が、1991年にプミポン前国王が環境改善に向けて、国民が一丸となって取り組むことを勧めたことから制定されたタイの「環境の日」であることは、あまり知られていない。このため、タイ政府はプラスチックごみによる環境破壊について、国民の意識を高める狙いで、「環境の日」に大手スーパーマーケット、コンビニエンスストアにレジ袋を終日配布しないよう呼び掛けた。天然資源・環境省によると、レ

タイの「環境の日」

ジ袋を含むポリ袋は年間450億枚が使われているという。店の入り口には環境問題を掲げたポスターが張られており、「1日5300枚のプラスチック袋がゴミとなっている」「再利用率はたったの3%」「毎年150万匹の海洋生物が犠牲になっている」など、プラスチックゴミが環境破壊をしていることを訴えた。私も実際スーパーマーケットで買い物をしたが、店員から「ごめんなさい、レジ袋はありません。エコバックが必要なら、お渡しできます」と説明があった。取り組みについてタイ国民の真剣さを感じた。タイの大手財閥グループもプラスチック廃棄物の削減に向

国を挙げてレジ袋削減



コンビニに張られたポスター
＝タイ・バンコク市内

け、2025年までにすべてのプラスチック包装容器の再使用、またはリサイクル、堆肥化を可能にする「サステナブル・パッケージング・ポリシー」を導入したと発表した。

タイは、急速な工業化、経済成長によりさまざまな環境問題を抱えている。工場からの排水、下水道整備の遅れからなる水質汚濁をはじめ、大気汚染、廃棄物問題など。それでも今回の「レジ袋の削減」についての取り組みは、全ての環境問題を改善するために一歩前進したかもしれない。

また国際モーターショーでは、自動車工場のハブとして最新の電気自動車を見ることができた。自動車業界も環境問題の取り組みが柱となっている。「環境の日」が終わり、再びスーパーやコンビニエンスストアでは、レジ袋を配布しているが、袋を断る人も増えていくのも実態である。エコバックの使用については徐々に浸透していくであろう。

(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)